平成28年度 大阪府立大学 授業公開講座（前期）

番号	講 座 名	講 師	曜日	コマ	定員	開講日
1	公衆衛生学Ⅰ ※注1	星 英之	月	1	20	4月11日
2	中国古典語Ⅰ ※注2	大平 桂一	月	2	5	4月11日
3	医療福祉論	山中 京子	月	3	10	4月11日
4	ジェンダーとヨーロッパ文化	村田 京子	月	4	5	4月11日
5	ことばの意味と文化	宮畑 一範	月	4	5	4月11日
6	家族社会学	田間 泰子	火	1	10	4月12日
7	共生社会と宗教 ※注1	秋庭 裕	火	3	5	4月12日
8	ドイツ語中級CⅠ（読解）	兼田 博	火	3	5	4月12日
9	教育福祉学への招待	田間 泰子	火	4	10	4月12日
10	科学の思想	斎藤 憲	水	2	30	4月13日
11	平和学の視点	山﨑 正純	水	2	5	4月13日
12	国際文化の視点	萩原 弘子	水	4	5	4月13日
13	公的扶助論	嵯峨 嘉子	金	1	5	4月15日
14	環境生物学	中山 祐一郎	金	2	10	4月15日
15	地域福祉論A	小野 達也	金	3	12	4月15日
16	マイノリティと文化システム	萩原 弘子	金	3	3	4月15日
17	心の病理学	総田 純次	金	4	5	4月15日

【1コマ】9:00～10:30　【2コマ】10:40～12:10　【3コマ】12:55～14:25　【4コマ】14:35～16:05

※注1 平成27年度に同講座を受講された方は、お申込みいただけません。
※注2 過去に同講座を受講された方は、お申込みいただけません。

10回以上受講された方には、修了証を交付（希望者のみ）

会　場　大阪府立大学　中百舌鳥キャンパス　各教室

対　象　どなたでも（全期間を通じて受講できる方）

受講料　1講座　3,000円
（一旦お支払いいただいた受講料は返金いたしかねますのでご了承ください。）

申込方法　「ハガキ」又は「Eメール」に、①ご希望の講座名（1講座のみ）、②氏名（ふりがな）、③年齢、④郵便番号・住所、⑤電話番号、⑥このチラシの入手先、をご記入の上、2月22日（月）《必着》までに、下記宛先へお申込みください。

※お申込みは 、お一人様 1講座までとさせていただきます

※申込者多数の場合は抽選です。

申込先　〒599-8531 堺市中区学園町1－1
大阪府立大学　地域連携室 「授業公開講座」係
e-mail: jkz28@ao.osakafu-u.ac.jp（半角英数）

問合先　TEL:072－254－9942（地域連携室）　◎ 講義概要については、中面をご覧ください

※お申込の際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成及び本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

公立大学法人 大阪府立大学 OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

大阪府立大学

授業公開講座

平成28年度 前期

平成28年 4月11日（月）～ 平成28年 8月1日（月）

各15回（予定）

この授業公開講座は、一部の授業科目を一般の皆様に公開し、
学生とともに授業を受けていただく講座です。

公立大学法人 大阪府立大学 OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

【講義概要】

講座番号 1:「公衆衛生学Ⅰ」（現代システム科学域） 星 英之 准教授

公衆衛生学Iでは、ヒトが健康であるために必要な疾病予防に関する全般的な知識について学びます。その中でも特に、健康に関する概念、環境と健康、疫学手法、主要な疾病の動向とその実践的な対策、さらに高齢者、母子など領域別の保健対策に関する基礎的な考え方を身に付けることを目標とします。

※（注） 平成27年度に同講座を受講された方は、お申込みいただけません。

講座番号 2:「中国古典語Ⅰ」（高等教育推進機構） 大平 桂一 教授

学習者向けに注釈が施された中国古典を講読しつつ、現代中国語文法との相違点や漢文訓読との関係などを学びます。同時に読解に必要な辞書、参考文献の利用法に習熟します。また、中国古典の読解を通じて現代中国を理解するために必要な中国文化の成り立ちに関する知見を得ます。本年度は特に、中国の言語と文化に関わる歴代の散文を読んでいきたいと思います。『史記』『資治通鑑』『世説新語』『説文解字注』などを予定しています。なお講読は中国語及び漢文訓読法をもちいて行います。大平が作成した「中国語発音マニュアル」を用いて中国語の発音の基礎を身につけて頂いた上で、原文を中国語で音読いたしましょう。そうすることによってベルクソンが主張するように、作者の思想やそれを書いた時の精神状態に肉迫できると考えています。

※（注） 過去に同講座を受講された方は、お申込みいただけません。

講座番号 3:「医療福祉論」（地域保健学域 教育福祉学類） 山中 京子 教授

病気は人に身体的な苦痛や症状を与えるだけでなく、その人の心理状態、自己認識、家族関係、社会生活、将来の夢などにも影響を及ぼす包括的な経験です。それらをアーサー・クラインマンは「病いの経験」と呼んでいます。 本講義ではまずこの「病いの経験」を時間的な流れに沿って多角的に検討します。その上で、それらの経験をしている人にとっての周囲からの支援の意味について考えます。また、周囲からの支援として、家族や友人などの私的関係における支援と専門職からの「公的関係」における支援を比較して検討します。特に、学期の中盤からは、ソーシャルワーカーの支援に焦点づけ、いろいろな種類の病院におけるソーシャルワーカーの具体的な活動と役割を考察します。

講座番号 4:「ジェンダーとヨーロッパ文化」（ 高等教育推進機構 ） 村田 京子 教授

フランス文学と芸術の関わりは深く、画家、音楽家、彫刻家を主人公とする芸術家小説をはじめとして、音楽や美術に関連する作品が多く見出せます。本講座では昨年度の講座で扱わなかった、ジョルジュ・サンドの作品（『ピクトルデュの城』）を取り上げ、ドラクロワとサンドの関係に触れながら、作中の少女が職業画家に成長していく過程を見ていきます。また、画家のアトリエを舞台とするバルザックの『ラ・ヴェンデッタ』とマルスリーヌ・デボルド=ヴァルモールの『ある画家のアトリエ』を取り上げ、男性作家と女性作家の芸術家像の違いをジェンダーの視点から明らかにしていきたいと思います。

教科書として村田京子『ロマン主義文学と絵画―19世紀フランス「文学的画家」たちの挑戦』（新評論）を使用します。

講座番号 5:「ことばの意味と文化」 （ 高等教育推進機構 ） 宮畑 一範 准教授

ことばの意味は、異なる言語間で見比べた場合、文化の違いと結びつけた相違点が強調されがちです。しかし、実は共通する部分も非常に多く、残念なことにこれまでそれは見過ごされたり、あるいは、過小評価されてきました。この授業では、英語と日本語を対象に（これまでの英語教育の中で、英語は日本語とは異なる言語なのだから、根本的に発想を変えないといけない、と刷り込まれている人が多いと思いますが）実際には共通する発想がいかに多いかを豊富な言語事実を踏まえて確認していきます。また、それが何を意味するかも考察していきます。毎回トピックを定め、英語と日本語とでいかに発想（の大元）が共通するかを確認します。授業の理解度を確認するために、毎回のトピックに関連する内容で、類例を探したり、それに基づいて考察をするなどの課題に取り組んでもらいます。

講座番号 6:「家族社会学」（地域保健学域 教育福祉学類） 田間 泰子 教授

今、家族は大きく変化しています。この授業では、（1）私たちのライフコースが家族とどのように関わるか、（2）戦後日本における社会と家族はどのように変化したか、（3）これからの家族と社会はどのようにあるべきか、を学びます。テキストとして『問いからはじめる家族社会学―多様化する家族の包摂にむけて』（岩間暁子・大和礼子・田間泰子著、有斐閣、2015年）を使用し、テキスト内容を解説する授業と、受講生が課題について意見を出し合う授業を1セットとして進めます。受講生は、テキストを購入し、予習としてテキストを読んでおくことが必要です。授業後にはテキストを読み直し、理解をより深めてから、出された課題について調べたり意見をまとめるなど、課題に取組んでいただく必要があります。

教科書として『問いからはじめる家族社会学―多様化する家族の包摂にむけて』（岩間暁子・大和礼子・田間泰子著、有斐閣、2015年）を使用します。

講座番号 7:「共生社会と宗教」（現代システム科学域／地域保健学域 教育福祉学類） 秋庭 裕 教授

＜目標＞「グローバリゼーション時代の宗教」を考察する。
じつは、21世紀は「宗教の時代」なのである。今日宗教が分からなければ世界は分からない。21世紀、人類は異質との共生を樹立できなければ、未来は拓けない。このような視点から、今や宗教を理解することが決定的に重要なのである。
＜概要＞以下のような項目を講義する。 ・エスニシティと宗教 ・国家と宗教 ・近代における宗教 ・宗教のプレモダン／モダン／ポストモダン ・グローバリゼーション時代における宗教の変容 ・共生社会の必然性

※（注） 平成27年度に同講座を受講された方は、お申込みいただけません。

講座番号 8:「ドイツ語中級ＣⅠ（読解）」 （ 高等教育推進機構 ） 兼田 博 教授

作曲家リヒャルト・ヴァーグナーは理想的な舞台音楽の創造のため、みずから台本を書き、また革命的な音楽を作りました。今回の材料は彼の生いたちから修業時代、成功を求めて追われるようにパリに移住するまでを書いたものです。短いながらも興味ぶかい自伝を、わたしたちは1語1語たどりながら読みすすめます。
この授業では担当者が訳を発表し、出席者全員でその内容を論じます。担当の順番と範囲はあらかじめ指定します。このドイツ語はけっしてやさしくはありませんが、ドイツ語の辞書と文法書を参照しながらゆっくり進んでいきます。受講者にはあらかじめ担当範囲を指定しますので、自分の順番が来たらドイツ語を読んで日本語に直してください。担当でない人も辞書を使ってできるだけ予習して授業にのぞんでください。

講座番号 9:「教育福祉学への招待」（地域保健学域 教育福祉学類） 田間 泰子 教授

この授業は、教育福祉学類が取組んでいる教育内容について、その基本的視座と概要を学んでいただくものです。教育福祉学類は、人々の尊厳を尊重し、人を中心とした生涯の発達支援・生活支援を行う力を育成しようとしています。この教育目的の達成には、さまざまな専門的立場の相互理解や協働が不可欠です。そこで、授業では学類教員がオムニバス形式で、それぞれの専門的立場から支援の必要性について講義します。テキストとして『教育福祉学への招待』（山野則子・吉田敦彦編、せせらぎ出版、2012年）を配布し、それを参照しながら授業を進めます。受講生は、テキストを授業の前後に読み、テキスト各章末と授業で示された参考文献を、各自でさらに読み進めることで理解を深めていただきます。

講座番号 10:「科学の思想」（現代システム科学域） 斎藤 憲 教授

（1）ギリシャの自然学と17世紀の「科学革命」、（2）19世紀の「第2の科学革命」を扱います。
（1）17世紀の近代自然科学の成立（科学革命と呼ばれます）は、自然現象を数学的法則が支配しているという信念に基づきます。最初にアリストテレスが集大成した古代ギリシャの自然観を概観し、それが16、17世紀にどのように転換していったのかを、宇宙論と運動論に焦点をあてて見ていきます。（2）19世紀の「第2の科学革命」の大きな特徴は科学の職業化です。科学研究が個人の趣味でなく、国家や企業が後援し、成果が期待されるものとなったのです。現代の科学技術のイメージの原型はこの時代にあります。この時代の重要な成果である電磁気学、エネルギーの概念の成立も扱います。

講座番号 11:「平和学の視点」（ 高等教育推進機構 ） 山﨑 正純 教授

この講義は「平和」をテーマとして、それに関する思考の基本を練り上げていくことを目標としています。今日、武力紛争や大規模な人権侵害はなお止むことがなく、暴力と憎悪の連鎖が続いています。世界にはさらに新たな分断線が引かれ始めています。いま平和を築き上げるために、国連や国際法そして市民には何ができるのでしょうか。どうすれば人類は対立を超えて真に和解できるのか、人権と人道の時代を構築するための条件を探ります。
教科書として『いま平和とは―人権と人道をめぐる9話―』（岩波新書）を使用します。

講座番号 12:「国際文化の視点」（ 高等教育推進機構 ） 萩原 弘子 教授

第3世界に暮らす人々の多くが貧しいというのは現実です。豊かな暮らしをしている者は、その貧困を「おくれ」と捉えがちです。つまり第3世界の人々、その社会・文化が本来的にもつ、いろいろな意味での「遅さ」が、結局貧困という結果を招いていると考えがちです。本講は、そう考えることのどこが間違っているかを具体的に知ることを目標とします。まずは、世界的視点で文化を見るとはどういうことか、という問いから始めて、文化を支える具体的基盤である政治・経済秩序の構造、その歴史を知ることの意味を論じます。そして、第2次世界大戦後の国際社会の経済・政治秩序の形成に焦点をあて、その過程で進んだグローバリゼーションと、人々の暮らし（文化）の破壊（貧困や戦争）をふりかえり、さらにはその克服を展望する新しい動きにも理解を開いていこうと思います。

講座番号 13:「公的扶助論」（地域保健学域 教育福祉学類） 嵯峨 嘉子 准教授

本講義は、社会保障制度の最後のセーフティ・ネットとよばれる生活保護制度について理解を深めることを目的としています。具体的には以下の内容を予定しています。 ・公的扶助制度の概念、役割 ・公的扶助制度の歴史的展開（日本） ・生活保護制度の基本的な仕組み（目的、基本原理および保護の原則、保護の種類と内容、生活扶助基準額の算定方式、給付の仕組みと手続、被保護者の権利及び義務、不服申し立て、実施体制および財源、等） ・生活保護制度の諸課題

講座番号 14:「環境生物学」（ 現代システム科学域 ） 中山 祐一郎 准教授

人間の生命や生活を支える生物多様性の意義や重要性を理解するために必要な生物学の基礎を習得することを目標に、生物の進化と絶滅の歴史を軸にして、生物の分類、構造、遺伝、生活環、生態、生物と環境との相互作用などについて講義します。

講座番号 15:「地域福祉論Ａ」（地域保健学域 教育福祉学類） 小野 達也 教授

地域福祉論Aの教育目標は、地域福祉の必要性や概念を理解することです。2000年以降、地域福祉は主流化したと言われていますが、その意味を考えます。講義の構成は3つに分かれています。はじめに、なぜ地域福祉が必要なのかを考察します。そのためには、現在の生活の仕組みやいかに社会福祉の対象が発生するかを学びます。次に、全体としての地域福祉を構築していくための枠組み、構成要件を考えます。最後に地域福祉に関する様々な考え方について検討します。地域福祉は、一部の人のためにあるのではなく、地域に住むすべての人に関わるもの、というのが基本的な姿勢です。

講座番号 16:「マイノリティと文化システム」（現代システム科学域 ） 萩原 弘子 教授

文化の形成を論じる視点の基礎をお話しします。私たちは「フランスの文化」「イギリスの文化」というように、国家を単位として文化を見ることをよくします。しかし文化は、国家のなかではどこも一様というものではありません。また国家の境界を越えて文化的連続性や一体性がある場合もあります。国家境界内で文化が均質であるということはなく、差異があり、文化的マジョリティとマイノリティが存在するものです。本講では、西洋世界における近代国家が理念としてかかげた文化的一元性、また植民地統治方法としての文化的同化主義をふりかえりながら、文化の現実と、文化システムとしての国家を考えてみます。具体的にはスペイン、イギリス、フランスの国家による言語をめぐる文化政策に焦点をあて、現実の多言語状況と、国家による一元化政策の矛盾について講じ、批判的視点を培うことをめざします。

講座番号 17:「心の病理学」（現代システム科学域 ） 総田 純次 教授

昨今、メンタルヘルスの重要性が強調されるようになり、保健所を中心としたうつ病や自殺予防対策、企業などでのメンタルヘルス管理の強化などの政策が施行されています。本講義では、将来臨床心理学を専攻する学生のみならず、比較的広い層を対象に、いわゆる「心の病気」について概説します。取り上げる予定は、認知症やせん妄といった高齢者に多い精神障碍、統合失調症やうつ病という従来精神医学の主要な対象であった精神障碍、20世紀の終わりごろからクローズアップされてきたパーソナリティ障碍、精神分析の主なフィールドであった神経症、ベトナム戦争を契機に注目を浴びるようになった心的外傷性障碍などです。それぞれの精神障害について視聴覚資料も用いつつ病像や精神医学の一般的な知見を紹介したあと、講義者の専門領域である精神病理学の立場からその心理学的メカニズムにも光を当てたいと思います。